

## 第4章 地球温暖化対策実行計画の進捗状況

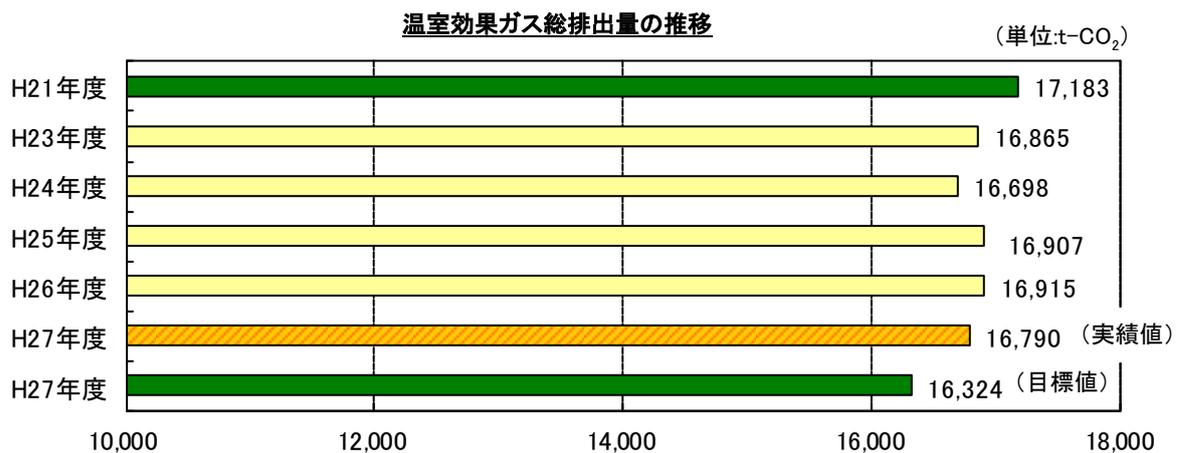
### 1 市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量

ここでは、島田市地球温暖化対策実行計画に基づく平成27年度の実績値を報告します。

#### 1-1 全体目標の進捗状況

- 平成27年度に市役所全体の事務・事業から排出された温室効果ガスの量は16,790 t-CO<sub>2</sub>で、基準年度と比較して△2.3%（393 t-CO<sub>2</sub>削減）という結果でした。

項目	基準年度 (H21年度)	平成27年度	目標年(H27年度) 《目標値》
		増減率 (対H21年度比)	目標削減率 (対H21年度比)
温室効果ガス総排出量	17,183 t-CO <sub>2</sub> /年	16,790t-CO <sub>2</sub> /年 △2.3%	16,324 t-CO <sub>2</sub> /年 △ 5.0%



- 排出された温室効果ガスの種類別内訳をみると、二酸化炭素が全体の約98%を占めています。

#### 温室効果ガスの種類別排出状況

(単位:t-CO<sub>2</sub>)

ガス種別	基準年度 (H21年度)	平成27年度	構成比
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	16,914	16,600	98.88%
メタン (CH <sub>4</sub> )	34	27	0.16%
一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	229	157	0.93%
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	6	6	0.03%
合計	17,183	16,790	100%

※パーフルオロカーボン(PFC)及び六ふつ化硫黄(SF<sub>6</sub>)については、本計画では対象外としている。

## 1-2 取組目標の進捗状況

### 取組方針①：施設におけるエネルギーの有効利用

- 電力使用量の最も多い施設は、島田市民病院の7,354,908kWhで全体の約25%を占めています。平成27年度は、島田市民病院や総合スポーツセンターなど多くの施設で前年度と比較して使用量の削減が見られましたが、中部学校給食センターの本格稼動に伴い使用量全体としては増加となりました。
- A重油の主な使用施設は、島田市民病院の566,006L、クリーンセンターの168,410Lで、全体の約87.9%を占めています。また、A重油を使用していた西部調理場が中部給食センターに統合されたため、全体の使用量は大幅に削減されています。
- 灯油の主な使用施設は、川根温泉（156,972L）及び田代環境プラザ（145,051L）です。平成27年度は、川根温泉及び島田市斎場での使用量の削減効果等により、23%の大幅削減を達成しました。
- LPガスの使用が最も多いのは温泉施設で、田代の郷温泉（68,485<sup>m</sup>）、川根温泉ホテル（38,599<sup>m</sup>）、川根温泉（20,487<sup>m</sup>）の3施設で、全体の約63%を占めています。また平成27年度は、中部学校給食センターが本格稼動となり、使用量が42,254<sup>m</sup>加わり、全体としては増加しました。

取組目標	基準年度 (H21年度)	平成27年度	目標年(H27年度) 《目標値》
		増減率 (対H21年度比)	目標削減率 (対H21年度比)
電力の使用量 (購入電力)	28,730,652 kWh	29,375,227kWh +2.2%	27,294,120 kWh △ 5.0%
A重油の使用量	1,028,202 L	835,626 L △ 18.7%	976,792 L △ 5.0%
灯油の使用量	538,604 L	414,615L △ 23.0%	511,674 L △ 5.0%
LPガスの使用量	139,127 m <sup>3</sup>	202,306m <sup>3</sup> +45.4%	132,171 m <sup>3</sup> △ 5.0%
都市ガスの使用量	166,526 m <sup>3</sup>	150,224m <sup>3</sup> △9.8%	目標値の設定なし -

### 取組方針②：自動車におけるエネルギーの有効利用

- 軽油については、17.4%の削減を達成した一方で、ガソリンについては、2%の増加となってしまいました。公用車の適正な運用管理に努め、エコドライブの実施、低公害車への切り換えを推進していきます。

取組目標	基準年度 (H21年度)	平成27年度	目標年(H27年度) 《目標値》
		増減率 (対H21年度比)	目標削減率 (対H21年度比)
ガソリンの使用量	125,176 L	127,665 L + 2.0%	118,918 L △ 5.0%
軽油の使用量	166,477 L	137,529L △ 17.4%	158,154 L △ 5.0%

### 取組方針③：水の有効利用と健全な水循環の形成

- 水の使用量については、7.1%の削減を達成することができました。今後も、節水に努め、漏水の確認等、管理点検を定期的実施していきます。

取組目標	基準年度 (H21年度)	平成27年度	目標年(H27年度) 《目標値》
		増減率 (対H21年度比)	目標削減率 (対H21年度比)
水の使用量	493,229 m <sup>3</sup>	458,241 m <sup>3</sup>	468,568 m <sup>3</sup>
		△ 7.1%	△ 5.0%

### 取組方針④：事務用品の購入・使用における環境配慮

- 用紙の使用量については、両面集約印刷の推奨や裏紙の使用等節約に努めていますが、業務の拡大や制度の拡大等により11.4%の増加となりました。使用量の削減を図るとともに、総合評価値による評価を行い、環境に配慮した製品の購入を目指します。
- グリーン購入の実施については、96.2%と実施率が向上しました。また、整理等で不要・余剰となった各課が保有する事務用品等の情報を、全庁LANへ登録し、全庁的な有効活用を図っています。

取組目標	基準年度 (H21年度)	平成27年度	目標年(H27年度) 《目標値》
		増減率 (対H21年度比)	目標削減率 (対H21年度比)
用紙の使用量 (総務課集中管理分) A4版換算	5,675,908枚	6,321,000枚	5,000,000枚以下
		+ 11.4%	△ 12.0%
グリーン購入率	58.9%	96.2%	100%
		37.3%向上	41%向上

### 取組方針⑤：廃棄物の減量化・リサイクルの推進

- 燃えるごみの排出量は、施設の増加等に伴い基準年度より増加しています。廃棄物の発生を抑制に努めると共に、リユース・リサイクルを推進し、資源の有効利用を図ります。

取組目標	基準年度 (H21年度)	平成27年度	目標年(H27年度) 《目標値》
		増減率 (対H21年度比)	目標削減率 (対H21年度比)
燃えるごみ排出量	585,565 kg	705,828 kg	527,009 kg
		+20.5%	△ 10%

**取組方針⑥：化学物質等の適正管理**

- 特定、代替フロン封入機器や化学薬品等の適正に管理に努めています。

取組目標	基準年 (H21年度)	平成27年度	目標年(H27年度) 《目標値》
特定フロン封入機器 廃棄時の適正回収率	-	100%	100%
代替フロン封入機器 廃棄時の適正回収率	-	100%	100%

**取組方針⑦：公共事業に伴う環境負荷の低減**

- 建設廃材の再資源化と適正処理の推進、リサイクル資材の利用推進等により資源の有効利用や外部への環境負荷の低減を図っています。

取組目標	基準年 (H21年度)	平成27年度	目標年(H27年度) 《目標値》
建設廃材の再資源化率	72%	33%	95%

## 2 市域における温室効果ガス排出量（参考）

ここでは市域における平成24年度の温室効果ガス排出量について報告します。（静岡県地球温暖化防止活動推進センター委託による推計・算定）

### 2-1 算定方法の変更

今年度の報告では、温室効果ガス排出量の算定方法が変更されました。昨年度の報告は平成24年度排出量のものでありましたが、新たな算定方法による本報告書に関しても平成24年度排出量の報告となっています。日本政府が中核的統計資料の「総合エネルギー統計」を改訂したことを踏まえ、これまで推計資料であった「石油等消費構造統計」から「都道府県別エネルギー消費統計」を用いて新たに平成24年度から算定をしています。

また、平成23年度以前のデータについては、旧算定における平成24年度値と平成23年度以前値の比率を新算定方式の平成24年度値に乘じることにより求めたもので、新算定方式により新たに算定したものではありません。

### 2-2 島田市域における温室効果ガス排出量の推移

- 温室効果ガス排出量は810万7千t-CO<sub>2</sub>（全国の0.05%）で、前年度と比較すると1.4%の増加となりました。なお、全国では前年度と比べて2.7%の増加となっています。

（単位：千t-CO<sub>2</sub>）

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比 増減率	平成24年 (旧算定)
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	738.9	727.8	775.7	787.0	+1.5%	1315.6
メタン (CH <sub>4</sub> )	8.3	8.3	8.3	8.0	△3.6%	12.6
一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	13.0	12.0	12.1	12.0	△0.8%	19.2
ハイドロフルオロカーボン (HFCs)	4.7	3.5	3.6	3.1	△13.9%	6.5
パーフルオロカーボン (PFCs)	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0
六ふつ化硫黄 (SF <sub>6</sub> )	0.6	0.5	0.6	0.7	+16.7%	0.37
合計	764.8	751.6	799.7	810.7	+1.4%	1354.3
<比較> 全国	1,250,424.1	1,304,299.7	1,354,313.9	1,390,484.5	+2.7%	1,343,117.7

※ 端数処理により合計・増減率と一致しないことがあります。

## 2-3 島田市域における部門別二酸化炭素排出量の推移

・産業部門において、化学・化学繊維・紙、パルプ製造業が12.1%削減しましたが、機械業が1.6%の増加、他業種・中小製造業は16.5%の増加となり、産業部門全体で2.2%の増加となっています。

(単位:千t-CO<sub>2</sub>)

部 門	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比 増減率	平成24年度 (旧算定)
産業	322.2	298.4	337.0	344.4	+2.2%	807.6
運輸	187.2	194.4	194.4	187.9	△3.3%	266.0
民生・家庭	135.4	137.8	145.3	144.3	△0.7%	155.4
民生・業務	76.6	80.0	86.9	91.2	+4.9%	67.1
廃棄物処理	17.4	17.2	19.4	19.2	△1.0%	19.5
合計	738.9	727.8	775.7	787.0	+1.5%	1,315.6
<比較> 全国	1,161,132.9	1,211,534.6	1,260,759.7	1,295,500.5	+2.8%	1,275,610.7

※項目について

産業・・・製造業や建設業、加工業など、市内の工場による排出量

運輸・・・鉄道、貨物車、乗用車(自家用車を含む)の使用による排出量

民生・家庭・・・家庭の電気・ガス・灯油による排出量

民生・業務・・・民間施設(店舗・オフィスなど)、公共施設による排出量

廃棄物処理・・・家庭、事業の一般廃棄物処理による排出量